

平成二十六年 総合問題 (文学科 日本語日本文学専攻) 解答例

㊦ (一〇〇点)

問一 ①すぐ(れた) ②どうさつりよく ③きた(え) ④こうよう ⑤そしょう

問二 フンボルトは、人間の目標を能力と成長における個性とし、そのためには自由と境遇の多様性が必要であるとするが、ミルの周辺では個人の自発性を尊重すべきと思う人はほとんどおらず、むしろ邪魔だと考えているから。(一〇〇字)

問三 他のひとびとの伝統や慣習

問四 過去の人類が、自分たちが重ねてきた経験のうち何をどのように活用し解釈してきたのかという推定(四五字)

問五 知力や精神力を使わず、他の人の意見や行動をそのまままねること。

問六 人類が経験によって得た成果を十分に利用でき、筋肉など肉体的な能力をあまり使う必要がないから。(四六字)

問七 アヘン戦争 黒船来港 南北戦争 大政奉還 など

問八

(1) ゆゑん(ゆえん)の よく

(4) 本文ではあくまで個人の意思や自己管理を問題にしているのに、漢文は「天に事^{つか}える」とか、「物を成す」とか、自分以外の天や周囲のことまで意識している。

㊧ (一〇〇点)

問一 ①擬人化 ②傑出 ③培(った) ④苦渋 ⑤享受

問二 あ思われる

い それよりあとの物語は、考えてみれば大変たやすいに違いないはずのものだ。

う それほど

え とどまらないだろう

お 所在なさ(退屈)

問三 ア 完了の助動詞「たり」の連用形と過去の助動詞「けり」の連体形

イ 推量の助動詞「べし」の已然形

ウ 動詞「名づく」の連用形活用語尾と存続(完了)の助動詞「たり」の連体形

問四 枕詞「大荒木の」「荒磯海の」の使用。

序詞「海の浮木の」「沢の真菰の」の使用。

対句表現「罪の根」「言の林」の使用。などから二例

問五 『三宝絵』は内親王のために作られた書物だから。(冷泉天皇皇女尊子内親王に敬意を表して。でも可)

問六 御心をやるもの(心をやるもの、つれづれ慰むもの、でも可)

問七 カタカナで書くことで漢字の意味をはずし音声だけにすることによって、物語とは作品のことという現代語の意味を薄れさせる働きがある。(六三字)

問八 物語は童幼婦女子の読み物に過ぎず、漢詩文や和歌などの正統な文学と対等ではないと
考えられていたこと。(四九字)